

瑞穂にねざし、明日をつくる

瑞穂区選挙区で県議選5期目に挑戦する高木ひろしさんと、同じく市会に初挑戦する新人の久田くにひろさんに、政治への思いなどを語り合ってもらいました。

県議会の3つの成果

高木ひろし 県議会ではこの4年間で、民主党が求め続けてきた3つの条例を実現させることができました。「障害者差別解消条例」「公契約条例(注1)」そして「選挙公報条例」です。いずれも、環境や人権などの価値を愛知県として実現していく上で大切な手掛かりになります。「新政あいち」という会派の副団長として、今回の県議選ではこうした成果をしっかりと訴えていこうと思います。

35歳の久田さんは若いけれど、今回名

対談

たかぎ
高木ひろし

ひさだ
久田くにひろ

民間企業で働きながら

久田くにひろ 食品メーカーの不二家や京セラ(KDJ)でサラリーマンとして働きながら、いろいろな社会の矛盾を感じていました。有り余る食品のムダと、一方で広がるこどもの貧困問題。子ども食堂やフードバンク活動などのボランティア活動に携わる中から、政治の場で「誰もが置きざりにしない社会」をめざしたいと

古屋市会に挑戦しようと思った動機は何ですか？

思うようになったんです。枝野さんが立ち上げた立憲民主党に強く共感して、勇氣をもらいました。

高木 立憲民主党には志はあるけどお金があまりない(笑)。生活困窮者支援に取り組んでいらつしやる杉浦医院(八事)の森亮太医師からも励ましていただいたんだね。働きながら名古屋大学大学院にも通って、何を研究していたんですか？

子育て支援こそ経済効果

久田 今の社会で広がる格差が経済成長



にマイナスになっていること。持続可能な社会を創るためには、子どもへの投資、例えば子育て支援を増やすことが社会、経済にとって重要であることを統計学に基づき研究しました。

高木 国連の世界食糧計画(WFP)を辞めて、夏の参議院選挙めざして活動している田島麻衣子さんとは、取り組むテーマが共通しているね。青山学院大学の同窓でもあるし。

久田 世界各国で飢餓や貧困に取り組んでこられた田島さんと力を合わせられる

ことは、とてもうれしいです。先輩の高木さんからも、アドバイスをいただけませんか？

愛知・名古屋の「コンビ」へ

高木 名古屋市と愛知県はとても大きなポテンシャル(潜在力)を持っていますが、いまは関係がぎくしゃくしています。河村市長としっかり議論が交わされる若い人材が市会には必要です。久田さんが生まれ育った瑞穂は、文教、スポーツ、歴史の

プロフィール

1953年生まれ、65歳。旭丘高校、大阪大学人間科学部卒。社会党本部で16年勤務し、1996年民主党結党に参加。現在は愛知県議員4期目で、新政あいち県議団(34名)副団長。「愛と知のリベラル」を掲げ、平和、人権、環境問題などに取り組む。立憲民主党。

プロフィール

1983年生まれ、35歳。陽明小、汐路中出身の瑞穂っ子。天白高校から青山学院大卒。民間企業で働きながら名古屋大学大学院で経済学修士。生活困窮者支援や、フードバンク、子ども食堂でもボランティア活動。昨年12月に立憲民主党公認を得て、名古屋市会に挑戦する。

素晴らしい街。そんな瑞穂区にふさわしいコンビとして、ともに頑張っていきたい。市と県が本場の協力、協調ができるように。

(注1) 公契約条例 愛知県が民間事業者と結ぶ契約(物品・サービスの購入、公共工事の発注など)において、事業者が社会的価値の実現(適正な労働条件、障害者雇用、環境保全、男女共同参画など)のためのチェックシート提出などを義務付けた。2016年4月施行。